

ひかりのこ

7月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2023年6月22日

月主題：心ひらかれて

「異年齢保育でつながる心」

6月も後半となり、子どもたちは、運動会活動に期待を持って参加しています。

よさこい、お遊戯。園長は、形ができ上がるまで、子どもたちからも先生たちからもご招待を受けないのですが、毎日の職員の反省会の中で、子どもたちの成長の姿を、先生たちが感激しながら伝えてます。

年長さんはよさこいを、どの子ども楽しみにしていることや、年中少さんのお遊戯も、上手になってきていることを聞くと、本当に嬉しい気持ちです。中には、ハンディを抱えているお子さんもいます。でも、どの子ども、その子の精一杯を出して、楽しみながら参加しているようです。

子どもたちがこのように成長する要因として、聖ミカエル幼稚園の異年齢保育中心の保育体制があげられます。

今年の年長さんは、去年も一昨年も、年長さんのかっこ良い姿を見上げてきました。「年長さんになったら、僕もあんなかっこ良いよさこいを踊るんだ。」というワクワクした期待いっぱいの気持ちを持ち続けてきたのでしょ。

日常の生活の中でも年長さんは、自分がしてもらったように、小さな子に優しくします。それを見て、年中さんたちも、年少さんがかわいがります。この「優しい気持ちの連鎖」が、子どもたちの中で起こっていくのです。

年中少さんの、お兄さんお姉さんを「見上げる心」、年長さんの「見上げられる中で、年上らしい姿を見せようとする心」、年中少さんの「年下の子に優しくする心」、年少さんの「優しくされる中で、その心地よさを感じる心」。

みんなの心と心がつながり、互いを成長させるのです。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「わたしたちの罪」って何？

毎週朝の礼拝の中でイエス様が教えられた「主の祈り」をお祈りしています。その一節に「わたしたちの罪」という言葉があります。この「罪」は、ニュースや新聞記事で読む「犯罪」や「罪」という意味と少し異なります。聖書の言う「罪」には「的外れ」という意味があります。

神に創られ、神と共に生きることを望まれて生まれた人が、その生き方から逸れて、本来と違う道へと進むことが「罪」なのです。人間にだけ、自分にだけ都合の良い生き方はいつか破綻します。「主の祈り」は、そのような絶望の淵に陥らないための道標の言葉です。

キリスト教が生まれた中東地域は、日本とは異なる文化と歴史に根差したものの見方をします。厳しい乾燥地帯で、隣国との奪い合い、せめぎ合いが続く日常は、戦国時代の諸行無常の世界観と重なります。命の重さを感じられない、そのような世界で必要とされた言葉は、小手先の知識や耳障りの良い言葉ではありません。

イエス様の言葉は、目に見えるものばかりに心が向いてしまう私たちの「的外れ」な生き方を、世界全体の流れの中で、他のすべての創造物と共に生きる命として、あるべき生き方へと導く言葉なのです。

チャプレン 司祭 上平 更

